

平成 6 年度魚病診断結果

沢田 健蔵・杉本 善彦

平成 6 年 4 月から平成 7 年 3 月までに養殖魚及び種苗生産や中間育成時に発生する病害について、水産試験場への持ち込みと養殖場の巡回調査時の検体について診断した結果を表 1 及び表 2 にまとめた。

診断結果

内水面における診断件数はアユ 135 件、ウナギ 6 件及びアマゴ 16 件となり、総件数は 157 件であった。海産魚における診断件数はブリ 29 件、ヒラメ 41 件、マダイ 6 件及びその他の魚類 9 件となり総件数は 85 件であった。

アマゴでは細菌性鰓病の診断件数が多く、アユでは冷水病及びシュードモナス病の診断件数が多い。また、冷水病及びシュードモナス病ではほぼ周年発生が見られている。海産魚では、ブリでは連鎖球菌症の件数が多く、ブリのイリドウイルス症の発生が初めて確認された。ヒラメでは、エドワジェラ症、ピブリオ病及び連鎖球菌症が主な疾病であった。

表1 平成6年度診断結果(淡水魚)

魚種/病名	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アマゴ													
細菌性鰓病	1	1	1	1	1								5
せっそう病	1	2											3
テトラオノンカス症	1			1									2
白点病						1							1
不明			1		3	1							5
小計	3	3	2	2	4	2							16
アユ													
シュードモナス病	1	3	6	1		1	1	1		2	7	6	29
ビブリオ病	1		6	3		5							15
連鎖球菌症					2	1							3
冷水病	2	3	5	1	1	3	3		9	5	14	10	56
その他細菌性疾病									1		2	1	4
ギロダクチルス症	1				2	1							4
黒点病					1								1
真菌性肉芽腫症	1					1							2
ミズカビ病				1		1					1	1	4
その他				3					1			2	6
不明		1	1			1				1	5	2	11
小計	6	7	18	9	6	14	4	1	11	8	29	22	135
ウナギ													
パラコロ病	1												1
シュードダクチロギルス症					1								1
メトヘモグロビン血症					1								1
不明		1	2										3
小計	1	1	2		2								6

表2 平成6年度診断結果(海産魚)

魚種/病名	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
フリ													
ビブリオ病		1											1
類結節症				5	3						1		9
連鎖球菌症		2		2	1			1		2	7		15
滑走細菌症													
イリドウイルス症					2								2
ベネデニア症				1									1
不明										1			1
小計		3		8	6			1		3	8		29
ヒラメ													
エドワジエラ症				2	3	1	2						8
ビブリオ病	1	4	2										7
連鎖球菌症		2			3		1				1	1	8
滑走細菌症		2		1									3
細菌性疾病										1			1
リンホシスチス症	1												1
アミルウージニウム症	1		3										4
スクーチカ症			2	1									3
イクチオボド症		1											1
ネオベネデニア症							1						1
不明					1		1		2				4
小計	3	9	7	4	7	1	5		2	1	1	1	41
マダイ													
エドワジエラ症			2										2
細菌性疾病				1									1
イリドウイルス症					1								1
白点病						1							1
トリコジナ症							1						1
小計			2	1	1	2							6
トラフグ													
ビブリオ病			3										3
繊毛虫症					1								1
ネオベネデニア症									2				2
不明		1											1
小計		1	3		1				2				7
カンパチ													
類結節症						1							1
クルマエビ													
ビブリオ病					1								1
計	3	13	12	13	16	4	5	3	2	4	9	1	85

薬剤感受性試験結果

アユの *V. anguillarum* A型の薬剤感受性試験結果は、スルファモノメトキシ及びオキシリンは一部に高感受性を示す菌株もみられたが、大部分は低感受性であった。フロルフェニコールは全て高感受性であった（表4）。

アユのシュードモナス病菌の薬剤感受性試験結果は、スルファモノメトキシ、オキシリン酸及びフロルフェニコールに対して全て低感受性であった（表5）。

ブリの連鎖球菌型の薬剤感受性試験結果は、エリスロマイシンに低感受性を示す株が見られた（表6）。

ブリの *P. piscicida* の薬剤感受性試験結果は、アンピシリン、オキシリン酸及びフロルフェニコールに低感受性株も見られた（表7）。

表3 薬剤名

SMM:スルファモノメトキシ	DOT:ドキシテトラサイクリン
OTC:オキシテトラサイクリン	OA:オキシリン酸
ABPc:アミノベンジルペニシリン	EM:エリスロマイシン
SPM:スピラマイシン	NFS:ニフルスチレン酸ナトリウム
FF:フロルフェニコール	

表4 アユから分離した *V. anguillarum* A型の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名		
	SMM	OA	FF
+++		1	10
++	1		
+	1	9	
-	8		

表5 アユから分離したシュードモナス病菌の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名		
	SMM	OA	FF
+++			
++			
+		6	
-	7	4	10

表6 プリから分離した連鎖球菌 型の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名								
	SMM	DOT	OTC	OA	ABPc	EM	SPM	NFS	FF
+++		13	10		14	7		9	13
++	1	2	4		3	5	6		5
+		3	1		1	2	6		
-	16		3	18		4	6		

表7 プリから分離した P.pscicida の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名								
	SMM	DOT	OTC	OA	ABPc	EM	SPM	NFS	FF
+++		2		8	6				3
++	1	8	2	2	1	1			2
+	3		8			3			5
-	6				3	6	10		